

自分を支えてくれる人の存在

わだ あかり

八千代市立大和田中学校 三年 和田明香里

私は、中学一年生の十二月、学校に行きづらくなりました。明確な理由は、自分でも説明できないのですが、きっかけは、「コロナだと思えます。小学六年生の修学旅行がなくなったのは、とてもショックな出来事だったのと、次々と規制ばかりの世の中で私は不安でいっぱいでした。制限ばかりの世の中で、慣れない中学校生活が始まり、なんとか平静を装い一学期を過ごしましたが私の心は悲鳴をあげていました。とうとう「もう学校に行けない。」と私は親に告げました。休んでいる間色々なことを考えました。特に将来のことを考えると不安と焦りでいっぱいでした。

そのような中、当時の担任の先生は、毎日電話をかけてくれました。私は、先生にどんな話をすればよいのかわからなかったので、出ることができませんでした。母から聞くと、先生は毎日クラスの様子だったり、「困っているなら、何とかするし、何とかなるよ。」とおっしゃってくれたり、色々な提案をしてくれました。それは、とても心強かったです。

そのおかげで意を決して個人面談に行った時先生は、満面の笑みを浮かべながら拍手をして喜んでくれました。私は気恥ずかしいやら久しぶりやらで先生とは対象的にだんまりとしてしまいました。が心の中ではとても嬉しかったです。二泊三日のスキー教室に参加できた時も同様にすごくほめてくれました。また毎日こまめに体調を気遣ってくれました。先生だけでなく当時のクラスメイトもほどよい距離で接してくれたこともありがたかったです。

私の場合、先生が親身になってくれたおかげで安心感を得ることができました。それとクラスの雰囲気など環境も立ち直るきっかけには大切だと思いました。当時のクラスは、自然に私を受け入れてくれた感じがしました。私は、学校に行きづらくなったことで悲観もしましたが先生や友達の対応によってその後がんばることができました。

耳心地の良い言葉をかけることはできるかもしれませんが行動に移すことで信頼感が生まれると思います。犯罪や非行に走る人は、そのような人が身近にいなかったり環境が悪かったのかなと思います。親身に寄り添ってくれる人や存在を肯定してくれる人がいれば、自分はいても良い人間なんだと思えると思います。私は、自分を信頼してくれる人を裏切りたくありません。信頼してくれる人とは、形だけでなく心で繋がっている人のことです。口先だけ優しい声をかけても相手は、すぐに勘づくと思います。

それから、自分の努力だけでは、どうしようもない環境におかれている場合もあるかもしれません。私も学校に行きづらくなった環境を自分一人では解決できなかったと思います。

どんな環境下の人たちにも手がさしのべられる世の中になってほしいと思います。卑屈になって、社会的に失うものが何も無いために犯罪を起こすことに何のちゅうちょもない人を作らないよう、心の寄りそいは必要だと思えます。